



『まちづくり事業』視察研修を受け入れました

10月31日、ふるさと会館いがに於いて愛知県田原市より田原市校区総代会行政視察研修の受入れを致しました。視察では、地域まちづくり計画の策定段階からまちづくり事業の実施、また行政との連携等活発な議論がなされました。

伊賀支所から伊賀市の施策としての住民自治、山本会長からは壬生野地域の概要、立山事務局長からはまちづくり事業の紹介等がありました。



ヤマギシだより ～私の職場紹介 No.2～

我が家は総勢200人、赤ちゃんからお年寄りまでの大家族。私は毎日食事作りをしています。200人、一人一人に合った、満足のいく食事を用意していくにはどうやったらいいのかと、他のお母さんたちと一緒に考えながら進めていくのがとても楽しいです。

特に一番楽しみなのが、もうすぐやってくるお正月のおせち作り。こんな時は村の女の全員腕のふるいどころです。今年はどうしていこうか・・・と、まずは描くところから始まります。沢山の智慧が寄って足され合っていく過程が、とってもおもしろいです。子供もおばあちゃんも、出番は山ほどあります。それぞれができることで、ちょっとずつ加わっていく事で、いつもと違う、味わいのあるお正月を迎える！ そんなところが今年もできたらいいかなと思ひながら、今日も食事作りをしています。

北村 政子

【村のことでのお問い合わせは TEL45-5550 (村人窓口) へお気軽にどうぞ】

編集後記

市町村合併から3回目の師走を迎えることとなりました。と同時にまちづくり協議会も発足から3回目の年末を迎えます。この協議会が発足して最初に取り組んだ事業が年末クリーン作戦です。地域の皆さんがごぞって参加して故郷の美化に努めていきます。自分たちの出来ることから参加するという住民自治のシステム。

市内はもとより、全国各地にこの活動が広がってきています。皆様方のアイデアで、この壬生野をすばらしい地域に育てていきましょう。

広報公聴実行委員会では、地域にまつわる記事を募集しています。ご紹介頂ける内容がございましたら是非ご投稿下さい。(但し、記事の取扱は編集委員にご一任頂きます。)
(委員長)

編集委員 居附秀樹 宮田美智子 増田裕充 塚本正子 渡部税子 中林豊 新村由美子
三根久美子 高橋大輔 梅田佳生 山本眞司

◇◇◇ご意見・お問い合わせは下記までお寄せ下さい◇◇◇

発行 壬生野地域まちづくり協議会 広報公聴実行委員会
事務局 三重県伊賀市川東 1659-5 壬生野福祉ふれあいセンター内
Tel・Fax 0595(45)6270
E-mail tokimeki@ict.ne.jp URL http://www.mibuno.net



コミュニティ壬生野 第21号



壬生野地域まちづくり協議会広報

平成18年12月1日発行

INFORMATION

- 環境特集 -



壬生野地域クリーン作戦を実施します！

壬生野地域まちづくり協議会主催の環境美化活動(クリーン作戦)を、来る12月10日(日)午前中に壬生野地域全域で実施します。

地域のみなさま、お一人おひとりのお力をお借りして“壬生野の郷”を一掃して、新たな気持ちで新年を迎えたいと思いますのでご協力をお願いします。

- ① 美化活動は地区毎に指定する場所にお集まり下さい。
- ② ゴミの収集は午前9時から1時間程度を予定しています。
- ③ 収集したゴミは、各地区の集会所等指定の場所へ集めて分別をして下さい。
- ④ 分別されたゴミを午前11時迄に壬生野小学校駐車場まで搬入して下さい。

〔詳しくは、コミュニティ壬生野号外(11月15日発行分)でご確認下さい。〕

伊賀市指定ゴミ袋制度導入される！



去る11月9日、伊賀市指定ゴミ袋制度導入に係る地区説明会が、壬生野地区の各地区役員さんと組長さんを対象として川東多目的集会所で開催されました。

説明会では、平成19年1月1日からの制度導入に伴い、可燃ごみについては指定ゴミ袋での収集となることなどが報告されました。指定ゴミ袋は45ℓが1枚あたり20円、30ℓが15円、20ℓが10円となり12月中旬から取扱店等で販売されます。

〔詳しくは、『広報 いが市』等でご確認下さい。〕



交通網利用状況調査に着眼

壬生野地域を対象に実施しました「交通網利用状況調査」について、集計結果を整理し回答内容の考察を行いました。伊賀市としても「伊賀市交通計画調査」が実施され、支所(地域)別懇談会において報告されています。今回は、伊賀市の交通に対する考え方や壬生野地域での交通網利用状況調査の具体的な内容をご紹介します。



「伊賀市交通計画調査」—支所(地域)別懇談会—より

伊賀市では、JR 関西本線と近鉄大阪線が東西に走り、本市と大阪市、名古屋市を連絡し、その 2 路線を連絡する近鉄伊賀線が通っています。一方、バス路線は三重交通が運行する“路線バス”と“廃止代替バス”、伊賀市が運行する“行政バス”の 3 種類のバスが存在しています。鉄道、バスともに昔とくらべかなりの衰退となっていますが、高齢者等の移動制約者に対するシビルミニマムの観点から、現状のバス路線の維持を基本に、路線の機能に応じた次のような対応が考えられています。

- **基幹バス**：伊賀市の骨格を形成する放射路線であることから、まちづくりの観点から高いサービス水準の維持を基本方針とする。また、そのために必要となる経費については、国・県より積極的な支援を得る。運行については、交通事業者によるものとする。
- **準基幹バス**：伊賀市の補助骨格路線であることから、比較的高いサービス水準の維持を基本方針とする。ただし、廃止代替バス、行政バスについては、利用実態を踏まえ、運行経路の見直し、運行の効率化を図る。
- **地域アクセスバス**：基幹バスから派生する路線であり、地域住民のシビルミニマムの観点から最小限のバスサービスの維持のため、市として支援を図る。

※シビルミニмумとは……安全、健康、快適、能率的な都市生活を営む上で備えるべき最低限の基準や条件

地区別のバス交通見直し(案)は……以下のとおりです

●鉄道、廃止代替、行政バスの重複区間の適正化

①JR 関西本線、柘植本線及び“いがまち行政サービス巡回車”が並走している伊賀支所～柘植駅間の柘植本線の利用者数は少ないことから、当該区間の柘植本線を廃止する。

課題

- ・“いがまち行政サービス巡回車”の柘植駅への乗り入れが必要となる。
- ・伊賀支所における交通結節機能の強化が必要となる。



●利用実態に応じた効率的な運行

②土日の利用者が少ない路線が存在することから、利用実態に応じた効率的な運用を図る。

「交通網利用状況調査」—壬生野地域まちづくり協議会—

壬生野地域を対象とした『交通網利用状況調査』の回答内容の詳細は下記のとおりです。

普段の外出目的と外出先は？

通勤通学、買い物、通院が外出目的の 9 割を占めています。外出先の多い順としては次のとおりです。

- ・通勤 ①伊賀市内 48.4% ②伊賀支所管内 22.8% ③近畿圏・中部圏 15.2%
- ・通学 ①伊賀支所管内 43.4% ②伊賀市内 31.9% ③三重県内 14.2%
- ・買い物 ①伊賀市内 62.9% ②伊賀支所管内 20.0% ③三重県内 9.7%
- ・通院 ①伊賀市内 68.4% ②伊賀支所管内 17.1% ③三重県内 10.4%

以上のとおり、地域のみなさんの外出は伊賀市内及び伊賀支所管内が最も多く、交通手段としては、自家用車の使用が、通勤で 78.0%、買物が 83.3%、通院が 77.1%と大半を占めています。自家用車の使用時間についても 20 分以内～40 分以内が最も多く、自家用車がアクセスの主流となっています。

公共交通機関利用の現状は？

一方、公共交通機関の利用については、「年に数回の利用」及び「この 1 年間は全く利用していない」が 67.3%と多く、「ほぼ毎日の利用」及び「週に 1～3 回程度」が 17.0% とかなり利用が少ない状況です。公共交通機関の種類は、鉄道 56.3%、バス 40.2% の利用となっています。以上のことから公共交通機関の利用は少なく廃止路線が増える現状は利用実態に即した方向であることが伺えます。

公共交通機関を利用するには？

実際に、公共交通機関を利用するとなれば、便数・接続・経路等の大幅な改善が必要であるとの回答が大多数となりました。また、駅周辺の駐車場の確保も必要です。不便なために利用者が少ないのか？ 利用者が少ないから不便なのか？ 交通網の状況から自家用車は必ずといっていいほど必要なものですが、高齢者や運転免許証を持たない皆さんはもちろんのこと、運転ができなくなったときや運転者がいなくなったときなど、将来のことを想定して不安を感じる回答も多くありました。地域の未来を考えるうえでも公共交通機関の充実は深刻な問題と言えます。外出目的として最も多い、通勤通学・買い物・通院において公共交通機関の利用できる方法を地域から提言していく必要があります。

行政バスの利用についても同じことが言えますが、やはり便数・接続・経路等の改善要望が多く寄せられていました。また、大型店舗や総合病院等への直行便やスムーズな乗り継ぎ及び阿山・佐那具・大山田へのアクセスを取り入れてほしいといったものや、せっかく行政バスを利用して目的までの道のりが遠回りである時間のかかり過ぎといった意見もありました。小中学生の登下校に行政バスの利用を取り入れてほしいといった意見もありました。

